

6-4 プロムナード拠点 観光と賑わい(中央街区周辺)

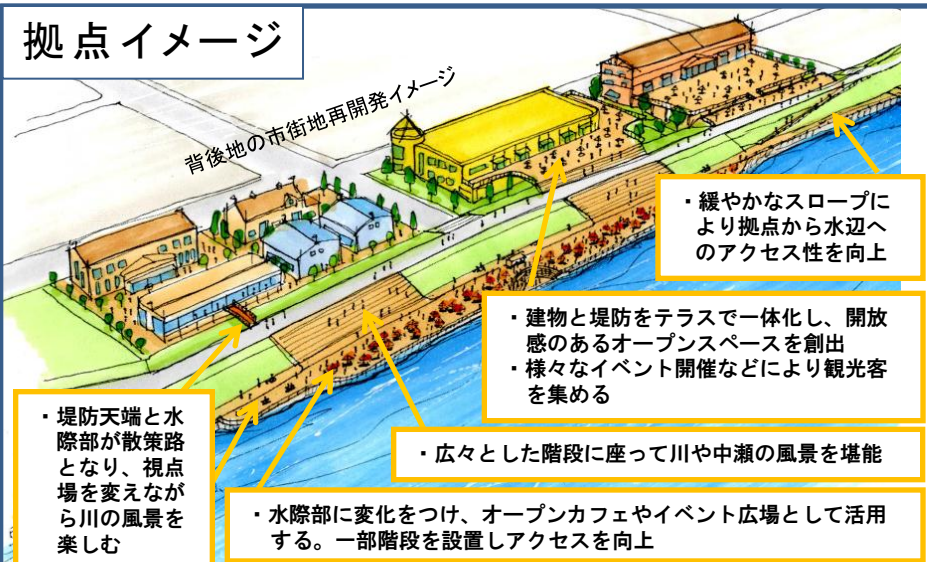
雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する
「食彩・感動いしのまき」

水辺の現況

- 津波により川沿いが被災し、今後、新たな堤防が整備される。
- 中央街区は、石巻中心市街地活性化基本計画の開発拠点となっており、復興計画でも中心市街地活性化に向けた整備を検討している。現在、仮設店舗ではあるが、川沿いに「石巻まちなか復興マルシェ」が整備されている。



拠点イメージ



※上図は堤防背後の再開発検討地区から水辺に至るプロムナード計画のイメージであり、今後の検討により変更が得られます。



水辺の利活用イメージ：水辺の賑わいを創出するための水際部の工夫を行う。

拠点方向性

- プロムナードの中核としての拠点であり、雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を味わうなど観光的な要素を含んだスポット（対岸の中瀬と連携することで拠点性を向上）
- 中央街区は、堤防整備を活かした再開発を検討していることから、プロムナードとしては人々が集える空間、回遊の中心とするための工夫・配慮を行う。

利活用方策

- 堤防の天端や、水辺にオープンスペースを創出することで、川を眺めながら石巻の美味しいものを堪能したり、人々が集うことのできるイベント等を開催することが出来る。



広島 京橋川 水辺のオープンカフェの例

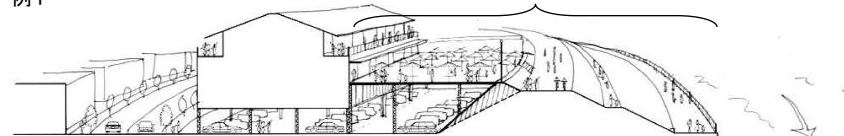


水辺のミニコンサートのイメージ

- 周辺には歴史・文化等の史跡が点在しているため、集まってきた人たちに、石巻の歴史・文化を伝える案内看板やサインを設置。
- 駐車場等、集客するための関連施設整備を行う。
- 昔の風景を偲ばせる渡し船や定期船、船着場などを小規模でも再現し、人々の回遊や移動手段として活用する。
- 背後地の再開発と連携し、堤防と一体となった整備により、川を眺めながらゆったりカフェや食事を楽しめるような空間を創出する。

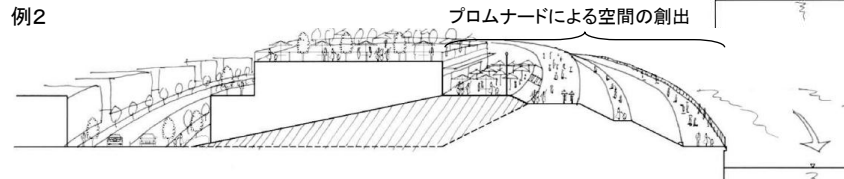
堤防と背後地の接続イメージ

例1



プロムナードによる空間の創出

例2



プロムナードによる空間の創出

実現に向けて

- 国で整備する河川堤防及び背後の再開発事業との調整を行い、堤防と建築物との接続部等での空間創出等、プロムナードによる整備内容、整備後の管理体制を具体化する。
- 利用者、管理者等の間で、オープンスペースの利活用方策や管理区分等を調整していく。
- 地域の意見も踏まえながら水辺へのアクセスや水際の工夫、利活用等を具体化していく。



拠点テーマ

川と共に暮らして「かわみなと・石巻」の歴史と文化の伝承
『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』
を伝えるシンボル空間

拠点方向性

- 石巻の歴史の面から、中瀬と右岸の住吉公園・雄島も含めた拠点として設定する。
なお本拠点は、拠点C及びルート③との連携により、多くの観光客や市民が集まり、回遊する拠点となる。
- 中瀬は、千石船を建造してきた歴史、湊町の記憶や暮らしの面影、歴史や文化を感じられる空間として拠点性を高める。
- 住吉公園・雄島は、数々の歴史・史跡があり、中瀬と一体となった拠点とする。

拠点の現況

- 中瀬は、震災前は石巻の観光スポットであったが、津波により壊滅的な被害を受け、施設の多くが被災・流出した。
- 今後、川沿いの堤防が整備されることに伴い、中瀬は水辺に近づける貴重な空間。
- 住吉公園・雄島は、数々の歴史・史跡があるが、津波により被災しており、「石巻」の地名の由来といわれる「巻石」が見えなくなっている。



多くの施設が被災・流出した中瀬



被災し沈下した雄島

利活用方策

- プロムナード全体そして観光としての拠点性が高まる様な整備を検討する(例:中瀬を一周できる散策路の整備と散策ツアーの企画など)



中瀬からの素晴らしい水辺の景色



第四回北上川石巻湊公開講座による歴史探訪会



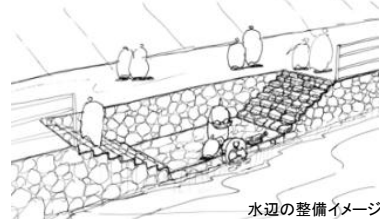
舟運と造船の歴史を偲ぶモニュメント

- 中瀬は石巻・北上川観光の重要なポイントであり、プロムナードの拠点(集い、歴史探訪の基点)でもあることから、石巻の歴史・文化のシンボリックなモニュメント設置や史跡を解説する施設や案内サインの設置を検討。
- 北上川舟運の発着所や渡し等の舟運の歴史を集積し、それらの伝承と学びの場としての活用も考えられる。また、舟運の再生などによる来訪者の回遊を検討する。
- 市民との協働による歴史・文化の集積、ボランティアガイドによる歴史・文化の伝承を推進する。

拠点イメージ

■住吉公園(雄島)周辺

- ・昔は渡し船の発着場所として利用されており、「袖の渡し」という歌枕になるほどの場所である。また、生活の場としても水辺に人々が集まっていた。
- ・水辺との繋がりを重視した空間を創出するとともに、「雄島」や「巻石(まきいし)」を再生する。



水辺の整備イメージ

○休憩・運動機能、親水機能

水辺に親しみながらゆっくり過ごすことができる場の創出
浅瀬をつくり、水遊びや釣りなどができる場所を再現

○歴史文化展示、歴史遺産伝承、歴史体験機能

- ・石巻の歴史と文化を感じられるミュージアム機能を持った島にすることが考えられる。
- ・中瀬は造船の歴史にちなんで、船のモニュメントや模型、水辺に浮かべることが考えられる。
- ・昔の街並みや賑わいを感じさせ、その中で歴史や文化を学べる空間とする。

○水面利用機能

中瀬と市街地を結ぶ渡し船や、中瀬一周の周遊コース(ミニクルーズ)などが考えられる。



釣り大会の様子

拠点C(再開券予定地区)

渡し場等の舟活用

渡し場等の舟活用

連続植栽(並木道)

※堤防や公園、橋等の施設はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

向
実
現
に

- 復興計画に基づく中瀬の公園整備と連携し、中瀬と左右岸の地区との交流や回遊などの利活用を、関係機関や地域とともに一体となって検討していく。

ルート
3

ルートテーマ

石巻湊の礎と漁港の賑わいを今に伝えつつ、
新たに産業と居住集積を考慮した拠点的ルート
「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルート方向性

- 安全に快適に水辺と緑を感じながら散歩できるルート
- 背後地は産業集積する地区及び居住地域となり、職・住の人口を抱えることから、人々の憩いの場となるよう、連続した植栽空間を生みだし、活用することでルートが拠点性を持つよう配慮
- 移動途中に休憩し、水辺の景色を眺められるように配慮
- 堤防背後から親水空間に行き易いように工夫(階段やスロープ)

水辺の現況

- 震災後の浸水防止のため川沿いに浸水防止壁を整備。今後、地震・津波・高潮に対して粘り強い堤防が整備予定。
- 川沿いは津波により被災し、復興計画では、産業ゾーンと居住ゾーンとして再生される予定。

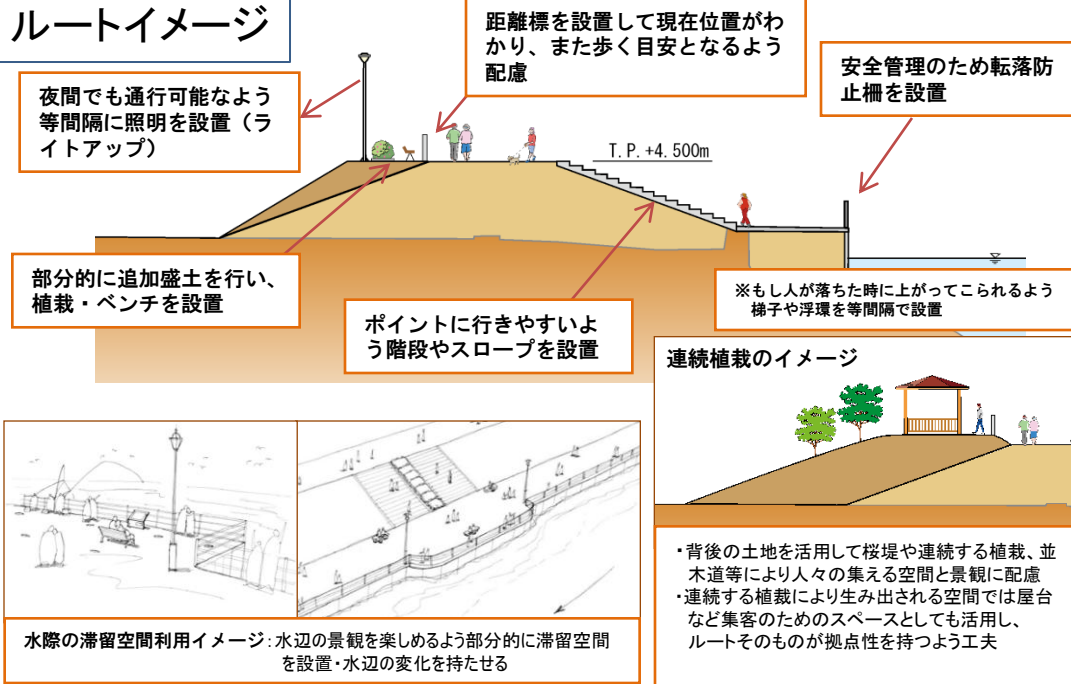


被災状況と震災後に設置した浸水防止壁



川沿いの道は車が通るため、安全に散歩することが難しい

ルートイメージ



※堤防や護岸等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

利活用方策

- 復興計画で産業集積地区と居住地域として予定されていることから、職・住合わせた住民の憩いの場として利用していく。
- 湊地区は、石巻湊としての歴史や昭和に漁港があった時代の賑わい、さらに造船業が営まれていたことなどから、石巻市の産業を学ぶエリアとして活用も考えられる。(案内板の整備により当時の産業の歴史を紹介していく)
- 連続した植栽空間(並木道等)を設け、人々の集いと憩いの空間を創出。屋台や出店など集客空間としても年間を通して活用し、拠点性を持つルートとして利活用を図る。



連続した植栽空間のイメージ

- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会単位(沿川企業含む)等で水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や植栽管理を推進する。
- ルート・拠点間移動を容易にするため、安全を確保してサイクリングロードとしても活用する(レンタサイクルの発着所を整備)。
- 浮桟橋の設置による、中瀬や対岸との渡しや定期船運行の可能性を検討していく。

向
実
現
に

- 国で整備する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画や水辺の工夫等、具体を検討していく。
- 利用者・管理者等の間で堤防天端や水辺の利用ルール・管理区分等を調整していく。